

リチャード・バアトン訳「一千一夜物語」に就いて

芥川龍之介

青空文庫

一

リチャード・バートン (Richard Burton) の訳した「一千一夜物語」——アラビヤン・ナイツは、今日^{こんにち}まで出てゐる英訳中で先づ一番完全に近いものであるとせられてゐる。勿論、バートン以前に出た訳本も数^{かず}あつて、一々挙^いげる^{とま}違^{ちが}ひも無い程^{ほど}であるが、先づ「一千一夜物語」を^{ヨオロッパ}欧羅巴に紹介した最初の訳本は一七〇四年に出たアントアン・ガラン (Antoine Galland) 教授の仏訳本である。これは勿論完訳ではない。ただ甚だ愛誦するに足る抄訳本と云ふ位のものである。ガラン以後にも手近い所でフォスタア

(Foster) だとかブシセイ (Bussey) だとかいろいろ訳本の無い訣^{わけ}ではない。併し何れも訳語や文体は仏蘭西臭味^{フランス}を漂^{ただよ}はせた、まづ少年読物と云ふ水準を越えないものばかりである。

ガラシ教授から一世^{のち}の後——即ち一八〇〇年以後の主^{おも}なる訳者を列挙して見ると、大体下^{しも}の通りである。

1. Dr. Jonathan Scott. (1800)

2. Edward Wortley. (1811)

3. Henry Torrens. (1838)

4. Edward William Lane. (1839)

5. John Pane. (1885)

トレンズの訳本は、在来のもののように英仏臭味を帯びないも

ので、其の点では一步を進めたものであるが、訳者が十分原語に通曉つうげうしてゐなかつたし、殊に埃エチプト及やシリヤの方ほう言げんなどを全く知らなかつた為に、憾うらむらくは所期の点に達し得なかつた。而も十分の一位で中絶して居るのは、甚だ惜むべきことである。

レエンの訳本——日本へは最も広く流布るふしてゐる。殊にボオン

(Bohn) 叢書の二卷ものは、本郷ほんがうや神田かんだの古本屋ふるほんやでよく見

受けられる——は底本ていほんとしたバラク (Bulak) 版が元々省略の

多いものであり、其の上に二百ある話の中から半分の百だけを訳出したもので、随したがつて残りの百話の中に却かへつて面白いものが有ると云ふやうな訣わけで、お上品に出来過ぎて了しまつて、応接間向きの趣し向ゆかうは好いよとしても、慊あきたらないこと夥おびただしい。お負けに、レエンは

いちやいちや
一夜一夜を章別にした上に、或章は註の中に追入れて了つたり、詩を散文に訳出したり又は全然捨てて了つたりして居るし、児戯に類する誤訳も甚だ多いと云ふ次第。

次にペエン——フランソア・ヴィヨン（[Franc,ois Vilon]）の詩を英訳した——の「一千一夜物語」の訳は、旧来のものに比べると格段に優れてゐる。話の数もガラン訳の四倍あり其の他のものの三倍はあるが、手の届かぬ所が無いでもない。しかし兎もかく角好訳であるが、私版を五百部刊行しただけで、遂に稀覯書のうちに這入つて了つた。ただ一つ特記すべきことは、巻頭にバアトンへの献詞が附いてゐることである。

バアトンの訳本も、一千部の限定出版で、容易に手に入り難い。

出版当時十ポンドであつたものが、今日では三十ポンド内外の市価を唱へられてゐるのは、「一千一夜物語」愛好者の為に聊か気の毒である。尤も此のバアトン訳の剽竊版（Pirate Edition）が亜米利加で幾つも出来てゐるが、中身は何うだらうか。バアトンの訳本の表題は左の通り。

A PLAIN AND LITERAL TRANSLATION OF THE ARABIAN
NIGHTS ENTERTAINMENTS, NOW ENTITLED THE BOOK
OF THE THOUSAND NIGHTS AND A NIGHT WITH INTROD
UCTION EXPLANATORY NOTES ON THE MANNERS AND
CUSTOMS OF MOSLEM MEN AND A TERMINAL ESSAY UP
ON THE HISTORY OF THE NIGHTS BY RICHARD F. BURTO

Z

巻数は補遺共十八冊で、出版所はバアトン倶楽部^{クラブ}、一八八五年から一八八八年へかけて刊行されてゐる。

訳者バアトン並びにバアトン訳本の次第は次々に話すことにしませう。

二

訳者バアトンは東方諸国を跋渉^{ばつせう}した英吉利^{イギリス}の陸軍大尉であるが、本の方を中心にしてお話すると、バアトンの訳本の成立ちは、第一巻の「訳者の序言」と第十一巻の「一千一夜物語^{いちせんいちや}の伝記並に

其の批評者の批評」とに収められて居る。

そもそ

抑もバアトンが此この翻訳を思ひ立つたのは、アデン在留の医師

ジョン・スタインホイザアと一いっしょ緒に、メヂヤ、メツカを旅行し

た時のことで、バアトンが第一巻を此のスタインホイザアに献けんじ

てゐるのを以て視みても、二人ふたりの道中だうちうばなし話がどんなであつたかは

分る。

其の旅行は一八五二年の冬のこと、其の途中で、バアトンは

スタインホイザアと亜刺比亜アラビアのことをいろいろ話してゐる中うちに、

おのづと話題が「一千一夜物語」に移つて行つて、とうとう二人ふたり

の口から、「一千一夜物語」は子供あひだの間に知れ渡つてゐるにも拘かか

はらず本當の値打が僅かに亜刺比亜アラビア語學者にしか認められてゐな

いと云ふ感慨が洩れて出た。それから話が一步進んで、何うしても完全な翻訳が出したいと云ふことに纏まり、スタインホイザアが散文を、バアトンが韻文を訳出する筈に決して、別れた。

それから両人は互に文通して、励まし合つてゐたが、幾も無くスタインホイザアが瑞西のベルンで卒中で斃れて了つた。スタインホイザアの稿本は散逸して、バアトンの手に入つたものは僅かであつた。

その後バアトンは、西部亜弗利加や南亜米利加に客寓中、独り稿を継いで行つた。其の間に於ける彼の胸中^{かん}は、「他人目には何うか知らないけれども、自分では何よりの慰藉と満足との泉であつた」と云ふ彼自身の言葉が尽して居る。

斯くて稿を畢つて、一八七九年の春から清書に取掛つて行つたが、一八八二年の冬、或雑誌に、ジョン・ペインの訳本が刊行されると云ふ予告が出た。バアトンが之を知つたのは、恰も西部亜弗利加の黄金海岸へ遠征しようと云ふ間際であつた。乃でペインに「小生も貴君と同様の事業を企て居り候へども、貴君の既に之を完成されたるは結構千万の儀にて、先鞭の功は小生よりお譲り可申云々」と云ふ手紙を送つた。その中にペインの訳本が出た。で、バアトンは一時中止した。

バアトンが又続けて言つて居る。「東部亜弗利加のゼイラに二箇月間滞在してゐた時にも、ソマリイを横断の陣中でも、此の「一千一夜」が何の位自分を慰めて呉れたか解らない」と。

然らば此のバアトンの訳本は、歐洲の天地を遠く離れて、而も瘴煙しやうえんばんう 蛮雨の中で生れたもので、恰あたもタイチに赴いたゴオガンの絵と好対照である。

一八八四年に、バアトンはトリエストに滞在中、最初の二巻を脱稿ここした。

茲ここで問題は印刷部数である。或学者が曰ふ、「百五十部乃至二百五十部で宣よろしからう」と。其の学者と謂いふのは、本文ほんもんを十六万部も刷すつて、六シルリングの廉価れんかぼん本より五十ギニイの高価本まで売り尽した男である。又或出版業者は「五百部がよい」と云つた。ただ素人しろうとの一友人が「二千から三千がよい」と勧めた。バアトンも迷つた末、一千部に決きめた。

バアトンはそれから知人未知人を問はず、買ふらしい人の表を作つて、広告を配^{くば}つた。其の要綱は、全十冊、一冊一ギニイ、各冊とも代金は本と引換へのこと、廉価版は発行しない。一千部限り印行、十八箇月内に完結の予定、と云ふ規定であつた。広告配布数は二万四千で、その費用は百二十六ポンド掛^かつた。返事の来たのは八百通。

翌年バアトンは英国に歸つて着々と事を進めてゐると、八百の予約はどうとう二千に殖^ふえた。中には「差当り第一巻を見本として送られ度^{たく}、氣に入り候はば引続いて願上候」といふ素見客^{ひやかしきやく}もあつた。

之に送つたバアトンの返事は、「先づ十ギニイ送金有^{これあり}之度^{たく}、

その上にて一冊御申込になるとも全十冊御申込になるとも御勝手
に候」と。其れから取次業者連中は、安く踏倒ふみたふさうと思つて種
々画策くわくさくをやつた。又、本を受取つても金を払はない連中も甘
人位あつた。

バアトンは最初から取次業者を眼中に置かず、危険を冒をして自
分で刊行しようと企てたのである。知名の文学者なり又文学団体
の協賛けふさんを希望したけれども、誰れ一人応ひとりじなかつた。バアトン
の計画を嘲笑てうせうした「印刷タイムス」の如きもあつた。「バ氏の
此の事業に關係して居る筈の某々の氏名が訳本に載のつて居らぬ。
印刷者の手落ちならば正に罰金を課すべきである。又「一千一夜
物語」の完訳は風俗上許し難い。縦令たとひ私版しはんであるとしても、公

衆道徳を傷ける虞きずつある以上はバ氏に罰金を課するが至当だ」と云ふやうな調子であつた。バアトンは此の挑てうせん戦に応じて「出版者は著者自身である。斯かる類たぐひの書を出版業者の手に移すことは不快の至りで、著者自身の手に依つて、東洋語学者並びに考古学者の為に出版するのである」と発表した。

三

バアトンの「一千一夜物語」十七巻の中、七巻は補遺ほゐである。その第十巻の終りに「Terminal Essay」が附いてゐて、此の物語の起源、亜刺比亚アラビアの風俗ふうぞく、欧羅巴ヨーロッパに於ける訳本等が精くはしく討究たうきう

されてゐる。殊に^{こと}亜刺比亜並びに東方諸国の風俗に関する論文は、
学術上の貴い研究資料であると共に、専門家ならぬ者にも^{すこぶ}頗る興
趣あるものである。

バアトンは本文^{ほんもん}を、一話一話に分けないで、原文通り一夜^{いちやい}一
夜^{ちや}に別けてゐる。又、韻文^{みんぶん}は散文とせず、韻文に訳出してゐる。
之を以て^み観てもバアトンが如何^{いか}に原文に忠実であつたかは推察出
来^きると思ふ。

例へば、^{アラビア}亜刺比亜人の形容を其^{そのまゝ}儘翻譯して居るのに非常に面
白いものがある。男女の抱擁^{はうよう}を「^{ボタン}釦が釦の孔^{あな}に嵌まるやうに一^い
緒^{つしよ}になつた」と叙^{じよ}してある如き其の一つである。又、バクダツ
ドの宮室庭園を写した文章の如きは、微^びに入り細^{さい}を穿^{うが}つて居^をつて、

光景見るが如きものがある。第三十六夜（第二巻）の話にある *arunal-Rashid* の庭園の描写などは其の好例である。

バアトンは又キリスト基督教の道德に煩わづらはされずして、大胆率直に東洋的享樂主義を是認ぜにんした人で、随したがつて其の訳本も在来の英訳「一千一夜物語」とは甚だ趣おもむきを異にしてゐる。例へば、第二百十五夜（第三巻）に Budur 女王の歌ふ詩に次の如きものがある。

The penis smooth and round was made with anus best to match it,

Had it been made for cunnus' sake it had been formed like hatchet!

併し概して言ふと、下しもがかつた事も、原文が無邪氣むじやきに堂々と言ひ放はなつてゐるのを其儘そのまま訳出してあるから、近代の小説中に現はれる Love scene よりも姪いんせつ褻の感を与へない。

脚註が亦頗る^{まあこぶ}細密^{さいみつ}なるものである。而も^{しか}其の註が尋常一様の
ものでなく、バアトン一流のものである。単に語句の上のみでな
く、事実上の研究にも及んでゐる。例へば Shahriyar 王の妃^{きさき}が黒
人の男を情夫^{じやうふ}にする条の註を見ると、亜刺比亞^{アラビア}の女が好んで黒
人の男子を迎へるのは他^{ほか}ではない。亜刺比亞人の penis は欧羅
巴人のよりも短い。然るに黒人のは欧羅巴人のよりも更に長く、
且つ黒人のは膨脹^{ばうちやうりつ}律^{りつ}が少なくて duration が長い。其の為に
亜刺比亞女が黒人を情夫に持つのであるといふ類^{たぐひ}である。現にバ
アトンが計測した黒人の penis は平均長さ何時^{インチなど}だ抔と註してある。
(未完)

(大正十三年七月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、
ボラン
ティ
アの
皆
さん
です。

リチャード・バアトン訳「一千一夜物語」に就いて
芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>